

課コード	001901	作成日	平成20年4月1日
所属名	農業水産課	作成者	斎藤 新

政策名(上位目的)
地域特性を生かした産地力の強化
目の名称
農業振興推進費

計画コード	分野	部	課	施策・事務事業
	款	項	目	事項
科目コード	26	01	11	56
(旧科目コード)	26	01	06	31
	26	01	11	49

事業名			戦略性
農業振興運営経費(いっせい草刈りデーの提唱)			
事業概要			
目的	(対象、意図、求められる結果)	開始年度	終了予定年度
・農業基盤の環境整備を進めるため、市民による奉仕活動を支援する。		年	年
活動内容			
・農業振興地域の農業用水・排水路等を対象に、その機能の維持と環境保全のため「いっせい草刈りデー」を提唱する。 ・草刈りは、自治会等が主体になって企画し、実施する。 ・市は、傷害保険を用意し、万一怪我などがあった場合に対処する。			
事業の性格分類		実施根拠(法令、条例等)	新市建設計画事業
義務的事業	任意的事業		ワーキング提案事業
			×
事業運営方法			
直営	一部委託	全部委託	補助等

		H17年度決算	H18年度決算	H19年度最終予算	H20年度当初予算	H21年度計画額	H22年度計画額	前期4年間計
事業費(千円)		1,055	1,317	1,173	1,200			
財源内訳	国庫支出金							
	県支出金							
	市債							
	受益者負担分(使用料等)							
	その他							
	一般財源	1,055	1,317	1,173	1,200			
人件費		800	800	800	800			
内訳	人工	0.1	0.1	0.1	0.1			
	単価	8,000	8,000	8,000	8,000			
計	年間経費	1,855	2,117	1,973	2,000			
	受益者負担率	0	0	0	0			

性質別内訳		人件費	扶助費	公債費	物件費	維持補修	補助費等	積立金	投資及び出資金	貸付金	繰出金	投資的経費	公営企業
平成	18	800					1,317						
	19	800					1,173						
	20	800					1,200						

定量評価						
指標1	単位	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
いっせい草刈りデーの参加人数	目標	人	66,000	66,000	66,000	66,000
	実績	人	41,394	38,489		
年間経費(事業費・人件費の合計)	千円	2,117	1,973	2,000		
単位当たり経費	千円/単位	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
単位当たり経費変動率	%		100.2%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

指標2	単位	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
	目標	%				
	実績	%				
年間経費(事業費・人件費の合計)	千円	2,117	1,973	2,000		
単位当たり経費	千円/単位	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
単位当たり経費変動率	%		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

定性評価		
過年度の実施内容		
<p>平成19年5月20日(第3日曜日)農業振興地域の用排水路等の農業施設について、その機能を維持し、併せて農業地域の環境保全を図るため「いっせい草刈りデー」を提唱した。</p>		
事前評価	必要性	(分析・理由)
	A	A 高い B ↑ C ↓ D 低い (分析・理由) 地域の環境整備を進めるためには、市民と行政が一体となって取り組むことが望ましいため、事業推進に必要な基盤づくりを行っていく。
事前評価	行政関与の妥当性	(分析・理由)
	A	A 高い B ↑ C ↓ D 低い (分析・理由) 行政の指導のもと事業を推進するのが妥当である。
事後評価	有効性	(分析・理由)
	A	A 非常に有効 B やや有効 C あまり有効でない D 有効でない (分析・理由) 地域の環境整備を進めるため、市民と行政が一体となって事業推進に取り組んだ。
事後評価	効率性	(分析・理由)
	B	A 単位当たり経費が前年比マイナス B 単位当たり経費が前年とほぼ同じ C 単位当たり経費が前年比プラス D 評価できない (分析・理由) 事業量が定量化しているため、前年と比較してほぼ同じ結果になる。
今後の事業展開		
規模		(分析・理由)
現状	拡大・充実 現状のまま継続 縮小 廃止	(分析・理由) 地域の環境整備を進めるうえで市民の奉仕活動は欠かせない。行政はこれをバックアップする必要がある。
具体的な改善内容・事業の方向性等		
<p>環境保全のためには、農業用排水等に限定した草刈りの提唱では十分でない。いっぽう、多くの部署がそれぞれの立場で、住民の活動を別個に支援するとすれば、効率的でない。事業を拡充しつつ、一元化する方向性を検討したい。</p> <p>問題意識 各部署が別個に自治会等の活動に支援するのは効率的でない。</p> <p>想定結果 市の実施が適当だが改善を要するもの</p>		